

2023年3月期
決算説明資料

株式会社T & K TOKA
T&K TOKA CO., LTD.

2023年5月24日

T&K

TOKA

Technology & Kindness

技術とまごころ

経営理念である

「独自のテクノロジー」で

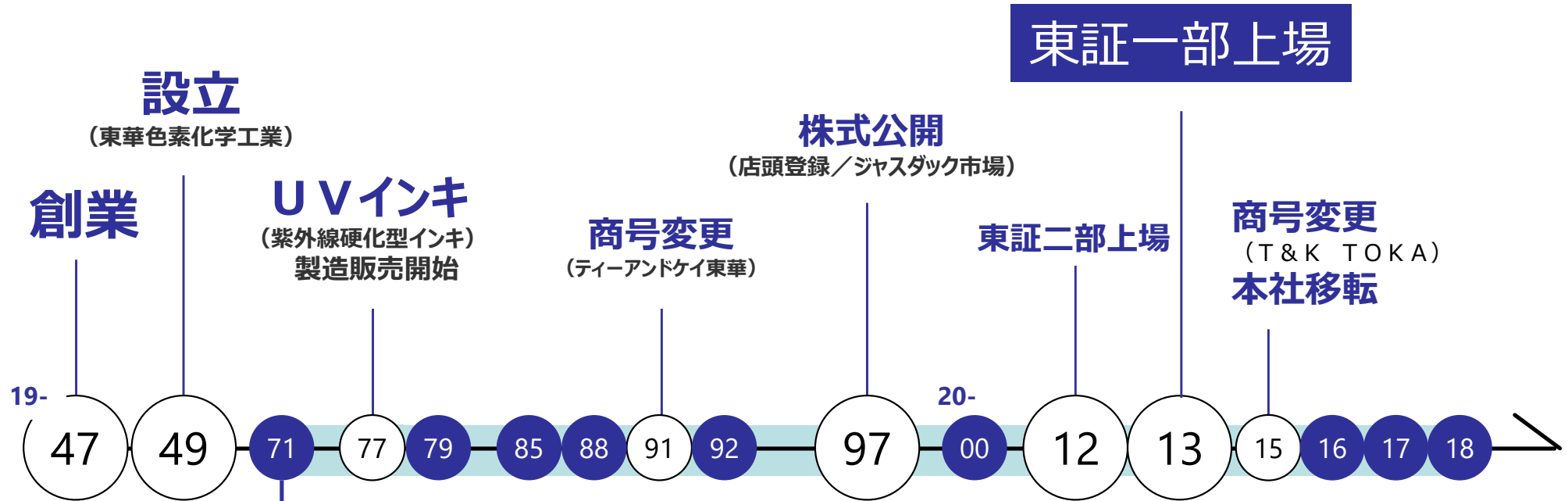
「お客様にとって真によいもの」を提供し、
社会に貢献するを表しています。

東京  中華

創業者は戦前、

中国でインキ業に携わっていました。

帰国後、**中国との架け橋になりたい**
との思いから、名付けられました。



海外現地法人の設立

1971年	インドネシア	2000年	サウジアラビア
1979年	韓国	2016年	タイ
	(香港には1969年より支店開設)	2017年	オランダ (2022年清算)
1985年	香港 (2022年清算)	2017年	アメリカ・ニューヨーク
1988年	中国・浙江省杭州	2018年	中国・浙江省嘉興
1992年	バングラデシュ	2018年	アメリカ・イリノイ

印刷インキ + 精密分散品・機能性樹脂 メーカー

印刷インキ

- パッケージ印刷用途
- 出版・商業印刷用途
- その他印刷用途

UVインキ・植物油インキ
その他インキ



機能性材料

- 精密分散品
FPDカラーフィルター用途
光ファイバー用途
- 機能性樹脂
接着剤用硬化剤 等

印刷用UVインキ国内トップシェア

アジア各国において当社の製品ブランド
“UV 161” がUVインキの代名詞化

多数のディスプレイブランドで採用

光ファイバー用UVインキ国内トップシェア

土木・建築から電子材料、自動車、
航空機・宇宙まで幅広く採用

UVインキ

UV（紫外線:Ultra Violet）の照射により瞬時に乾燥するインキです。紙・フィルム・PETなど様々なものに印刷でき、紙パッケージ・食品包装材・ラベル・クリアファイルなど多様な用途があります。

平版インキ

平版印刷（オフセット印刷）のためのインキで、書籍・チラシなどの出版物の印刷に広く用いられます。

その他インキ

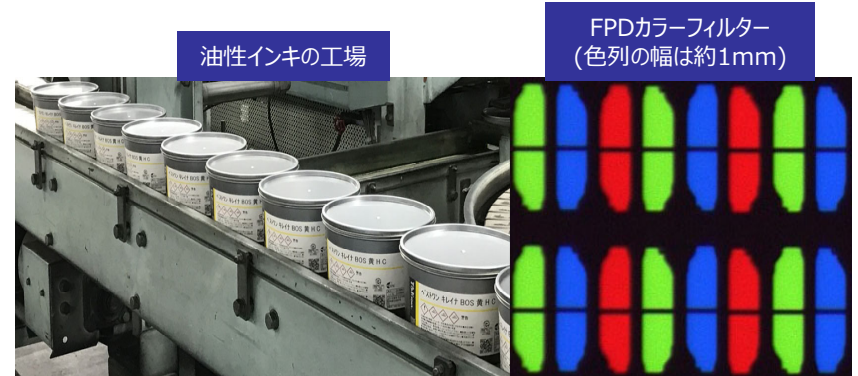
上記以外のインキです。フィルム等の軟包装材などを印刷する凹版印刷（グラビア印刷）のためのグラビアインキや、飲料缶などのための金属インキなどです。

その他

機能性樹脂などの、その他の製品です。機能性樹脂は、自動車や船舶の塗料、橋梁・道路などの土木建築用接着剤、半導体など電子部品の接着剤などに用いる合成樹脂です。

商品

他社製の印刷機や印刷関連資材などの仕入販売による売上です。



■連結損益計算書（百万円）

	21.3期	22.3期	23.3期	増減額	増減率
売上高	42,205	44,456	43,667	▲789	▲1.8%
売上原価	34,386 (81.5%)	36,063 (81.1%)	36,061 (82.6%)	▲2	▲0.0% (▲1.5%)
売上総利益	7,818 (18.5%)	8,393 (18.9%)	7,605 (17.4%)	▲787	▲9.4% (▲1.5%)
販売費及び一般管理費	7,619 (18.1%)	8,164 (18.4%)	7,181 (16.4%)	▲983	▲12.0% (▲2.0%)
営業利益	198 (0.5%)	228 (0.5%)	424 (1.0%)	196	86.0% (0.5%)
経常利益	1,088 (2.6%)	1,992 (4.5%)	1,853 (4.2%)	▲138	▲7.0% (▲0.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,323 (3.1%)	2,651 (6.0%)	1,107 (2.5%)	▲1,544	▲58.2% (▲3.5%)

■連結売上高の版別内訳（百万円）

	21.3期	22.3期	23.3期	増減額	増減率
UVインキ	18,796	20,759	21,298	539	2.6%
平版インキ	7,494	8,030	7,805	▲224	▲2.8%
その他インキ	7,263	6,776	5,349	▲1,426	▲21.0%
その他	3,177	3,522	3,372	▲150	▲4.3%
製品計	36,731	39,088	37,826	▲1,261	▲3.2%
商品	5,473	5,367	5,840	472	8.8%
売上高合計	42,205	44,456	43,667	▲789	▲1.8%

(前年増減率)

売上高 **436億67百万円** **▲1.8%**

■ UVインキ + 5億39百万円 + 2.6%

- 一般UVインキをはじめとする印刷インキは、海外市場を中心に拡販、販売価格の改定を進め増収
- 機能性材料は、FPDの供給過剰による生産調整・在庫調整の影響からカラーフィルター用顔料分散液の出荷が大幅に落ち込み減収

営業利益 **4億24百万円** **+86.0%**

諸コストの増加に対し、幅広い製品及び地域において継続的に販売価格の改定に着手

経常利益 **18億53百万円** **▲7.0%**

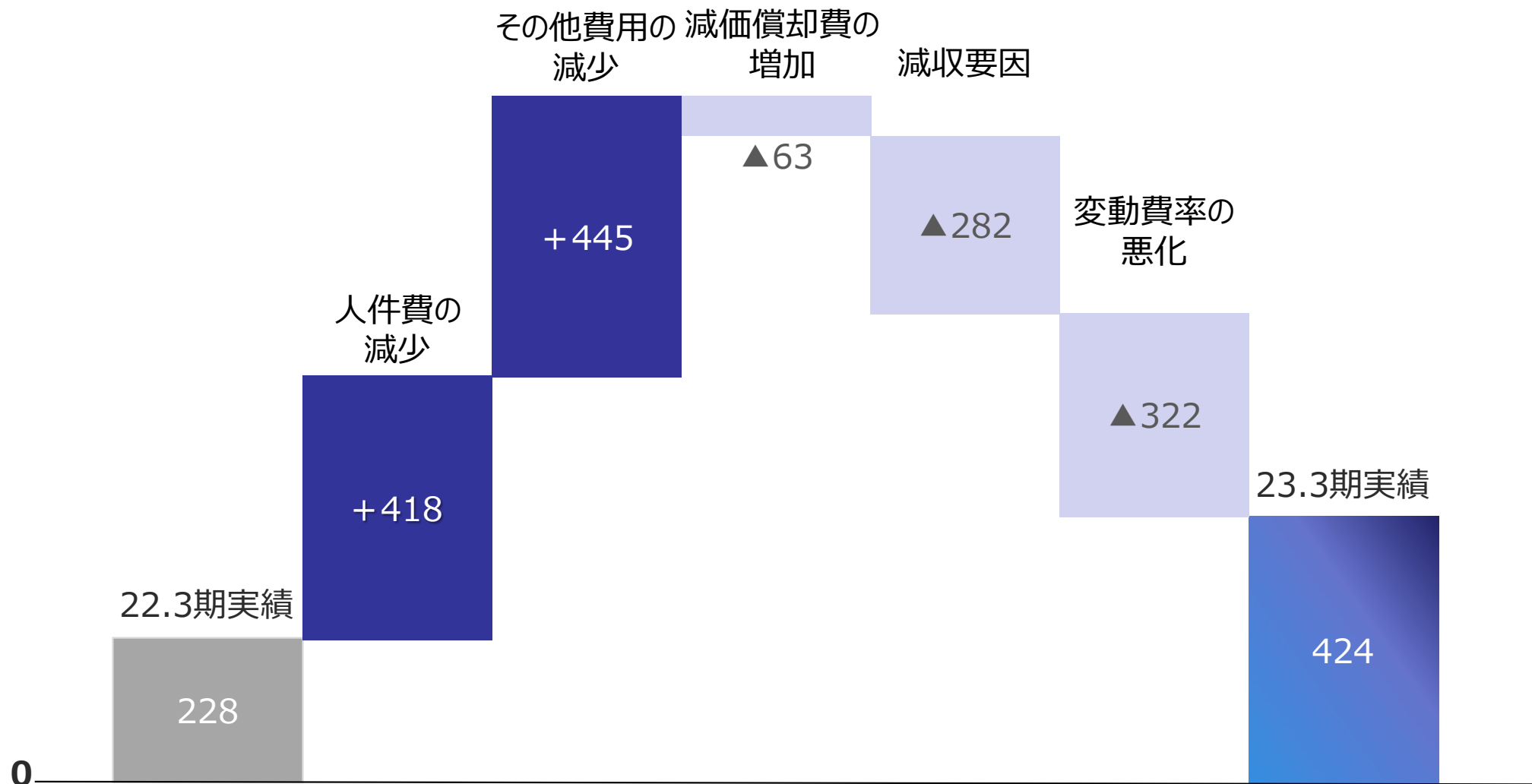
持分等投資利益 6億35百万円 (22.3期 7億38百万円)
 為替差益 5億84百万円 (22.3期 6億64百万円)

親会社株主に帰属する当期純利益 **11億7百万円** **▲58.2%**

固定資産売却益 7百万円 (22.3期 12億95百万円)
 子会社清算益 (香港) 2億91百万円
 子会社清算損 (オランダ) 1億60百万円
 公開買付対応費用 1億21百万円

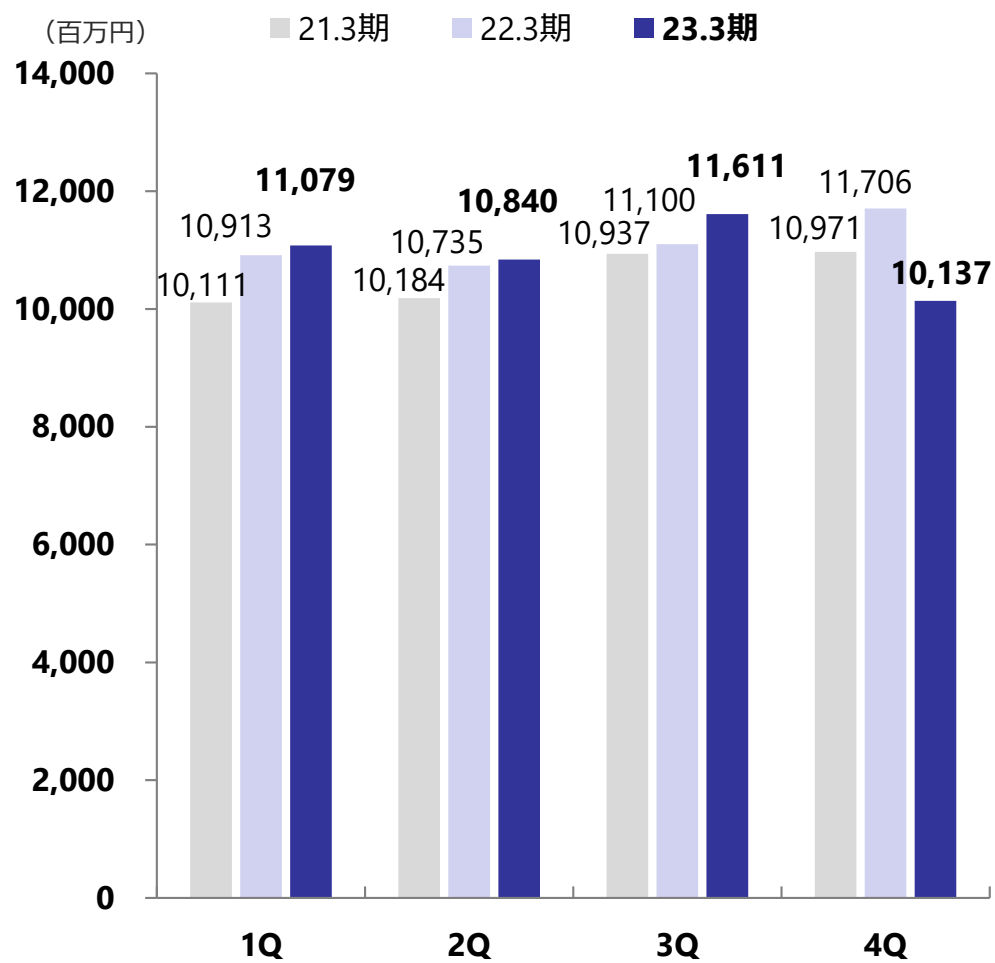
2023年3月期の営業利益の増減分析

(単位：百万円)

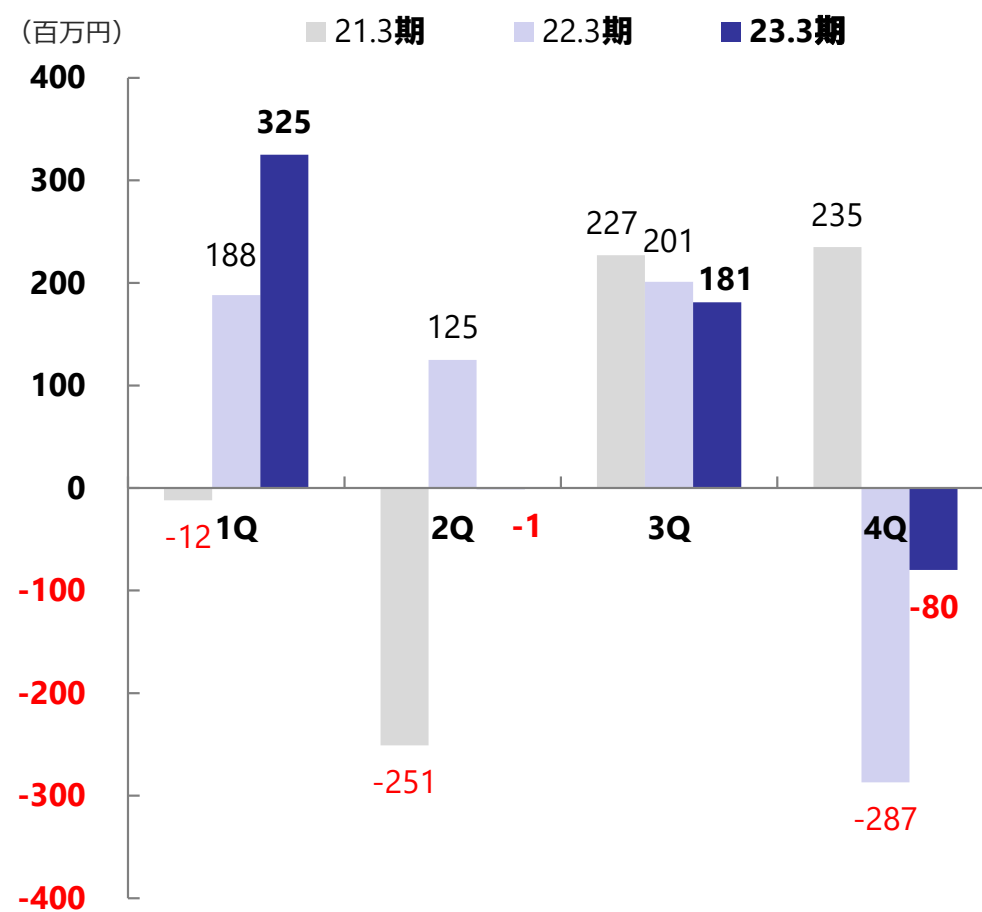


※23.3期に東華油墨国際(香港)有限公司及びVan Sonオランダを清算しております。

売上高の推移



営業利益の推移



連結貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書 T&K TOKA

(単位：百万円)

連結貸借対照表	21.3期	22.3期	23.3期	増減額
流動資産	31,161	31,341	28,651	▲2,690
現金及び預金	9,361	9,111	6,457	▲2,653
売上債権	13,948	14,349	13,232	▲1,116
棚卸資産	7,599	7,955	8,343	387
その他	276	406	624	217
貸倒引当金	▲24	▲481	▲6	475
固定資産	36,273	38,965	39,194	229
有形固定資産	23,278	24,443	23,929	▲514
無形固定資産	452	460	430	▲30
投資その他の資産	12,543	14,060	14,835	774
資産合計	67,435	70,306	67,845	▲2,460
流動負債	17,585	18,433	15,709	▲2,723
仕入債務	10,095	10,543	9,956	▲586
短期借入金	5,306	5,151	3,642	▲1,509
固定負債	5,106	3,577	3,012	▲564
長期借入金	3,061	2,249	1,509	▲740
退職給付に係る負債	243	255	247	▲7
負債合計	22,691	22,010	18,721	▲3,288
純資産合計	44,743	48,296	49,124	827
負債・純資産合計	67,435	70,306	67,845	▲2,460

連結キャッシュ・フロー	21.3期	22.3期	23.3期	増減額
営業CF	3,227	2,295	2,108	▲186
投資CF	▲772	▲971	▲1,747	▲775
財務CF	▲2,643	▲1,725	▲3,981	▲2,256
現金及び現金同等物の残高	6,315	6,245	2,828	▲3,417

■連結損益計算書（百万円）

	22.3期	23.3期	24.3期予想	増減額	増減率
売上高	44,456	43,667	49,180	5,512	12.6%
売上原価	36,063 (81.1%)	36,061 (82.6%)	40,150 (81.6%)	4,088	11.3% (▲1.0%)
売上総利益	8,393 (18.9%)	7,605 (17.4%)	9,030 (18.4%)	1,424	18.7% (1.0%)
販売費及び一般管理費	8,164 (18.4%)	7,181 (16.4%)	7,630 (15.5%)	448	6.3% (▲0.9%)
営業利益	228 (0.5%)	424 (1.0%)	1,400 (2.8%)	975	229.7% (1.8%)
経常利益	1,992 (4.5%)	1,853 (4.2%)	2,140 (4.4%)	286	15.4% (0.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,651 (6.0%)	1,107 (2.5%)	1,360 (2.8%)	252	22.8% (0.3%)

■連結売上高の版別内訳（百万円）

	22.3期	23.3期	24.3期予想	増減額	増減率
UVインキ	20,759	21,298	26,700	5,402	25.4%
平版インキ	8,030	7,805	9,700	1,895	24.3%
その他インキ	6,776	5,349	4,120	▲1,229	▲23.0%
その他	3,522	3,372	3,420	48	1.4%
製品計	39,088	37,826	43,940	6,114	16.2%
商品	5,367	5,840	5,240	▲600	▲10.3%
売上高合計	44,456	43,667	49,180	5,512	12.6%

(前年増減率)

売上高	491億80百万円	+ 12.6 %
------------	------------------	-----------------

- 一般UVインキをはじめとする印刷インキは、海外市場を中心に拡販、適正販売価格への改定を進め増収と予想
- 機能性材料は、FPDの市況回復に関連しカラーフィルター用顔料分散液の需要回復が進むと予想

営業利益	14億00百万円	+ 229.7%
-------------	-----------------	-----------------

- 原材料の調達制約や物流の混乱および価格高騰の継続に留意が必要なものの、高付加価値製品の拡販や適正販売価格への改定により増益の予想

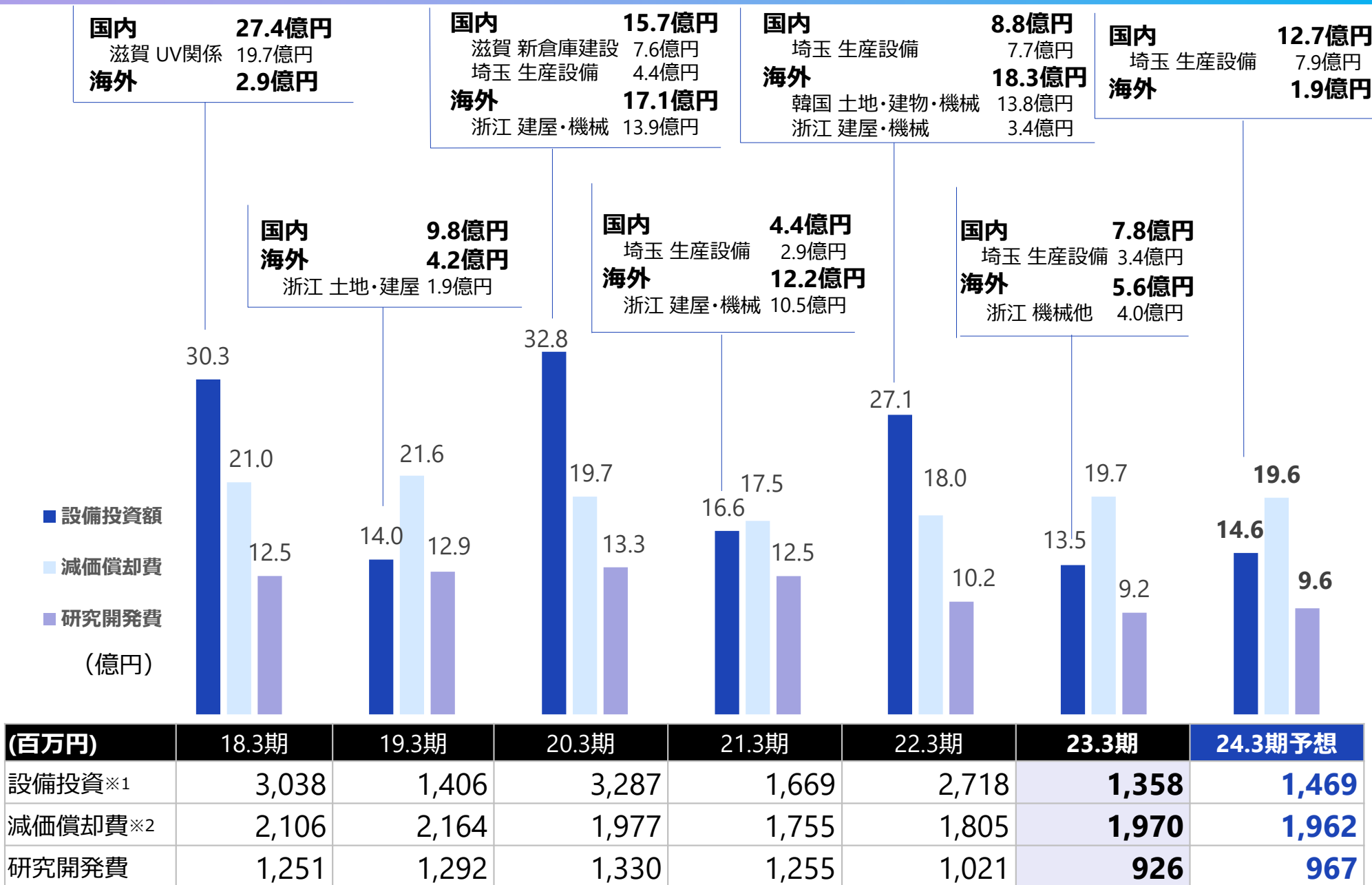
経常利益	21億40百万円	+ 15.4 %
-------------	-----------------	-----------------

- 営業外損益のうち主なものは持分法投資利益

親会社株主に帰属する当期純利益	13億60百万円	+ 22.8%
------------------------	-----------------	----------------

- 重要な特別損益の見込なし
経常利益と当期純利益との差は、主として法人税等

設備投資、減価償却費、研究開発費の推移 T&K TOKA



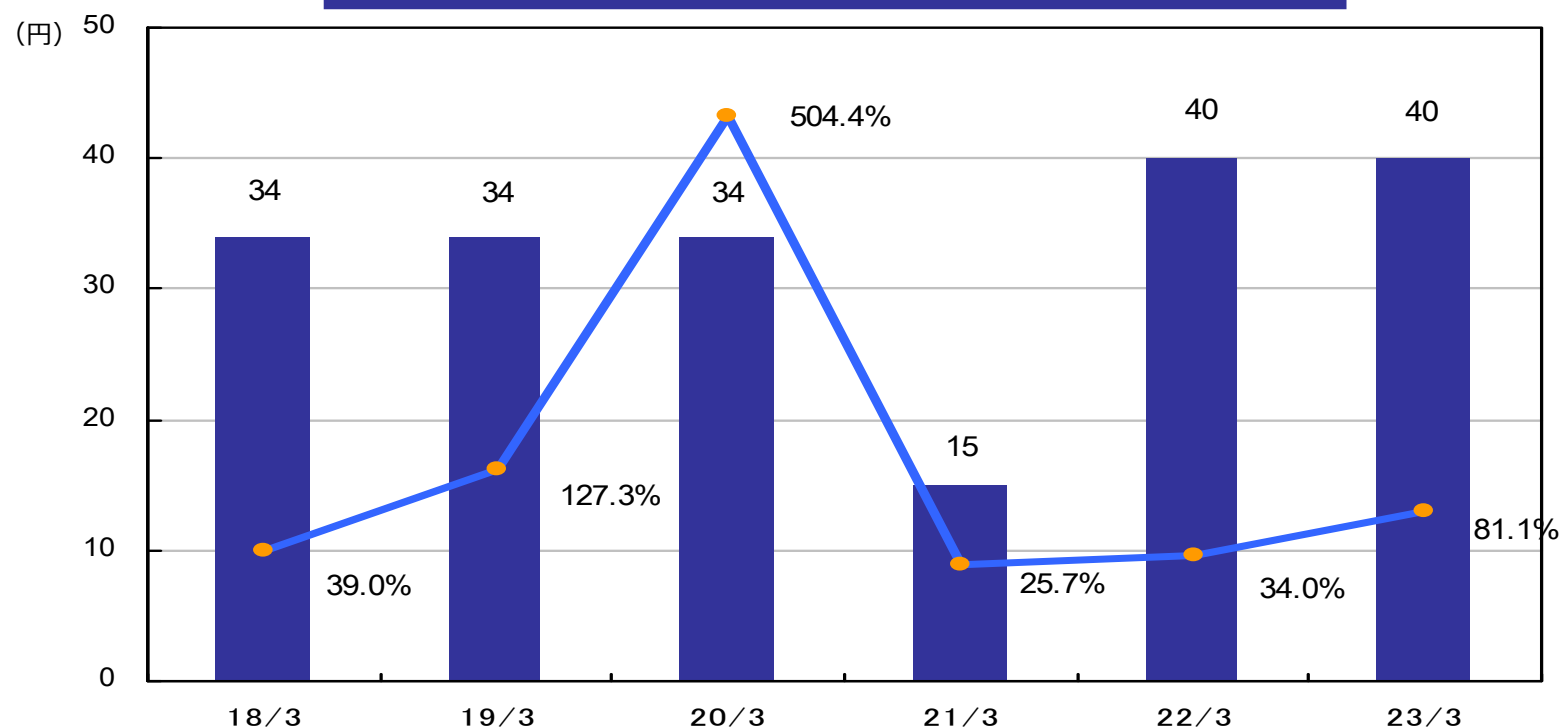
※1 竣工ベース

※2 リース資産の減価償却費を除く

将来の事業展開に備えた財務体質の強化を図るとともに、業績に応じて安定的な配当を継続していくことを、配当の基本方針としています。

中長期的な連結配当性向は50%以上を目安に実施していく予定であります。

1株当たりの配当金・連結配当性向 (円、%)



(百万円、千株)	18.3期	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期
配当総額	799	799	799	337	902	904
発行済み株式数	25,055	25,055	25,055	22,555	22,603	22,664

浙江迪克東華精細化工有限公司は2022年8月から本生産を開始

中国市場へのFPDカラーフィルター用着色剤等 ファインケミカル製品の製造販売

- ▼2021年6月 試生産開始
- ▼2021年7月 一部製品の製造販売開始
- ▼2022年4月 工場操業許認可申請完了
- ▼2022年8月 本生産開始

本生産開始以降、取引先からの引き合いが続き、順次テスト品を出荷しております。取引先でのテスト品の評価も進み、生産量は順調に増加しております。



【正門】
【現場作業風景】
(2022年9月撮影)



■2022年度中の子会社清算

東華油墨国際(香港)有限公司は2021年9月までに実質的な活動を全て終了しました。会社清算手続きに伴い、当第2四半期連結会計期間において連結の範囲から除外し、子会社清算益291百万円を計上しました。

Van Sonオランダの実質的な活動は2021年12月に終了しました。会社清算手続きに伴い、当第3四半期連結会計期間において連結の範囲から除外し、子会社清算損160百万円を計上しました。

■事業承継に向けた基本合意書締結

グラビアインキ関連事業の事業譲渡その他の方法による承継に向けた基本合意書

2022年5月24日に公表した中期経営計画 With You toward 2024 の全社戦略に則り、「事業ドメインの明確化、経営資源の適切な配分」の観点からグラビアインキ・フレキシインキを非注力製品群と位置づけ撤退し、UVインキ及び機能性材料へ集中を進め始めました。

対象事業の具体的な内容及び範囲並びに本事業承継の方法等の詳細については、当社および東京インキ株式会社間において引き続き協議の上、決定する予定です。

- ▼2023年1月 基本合意書締結
- ▼2023年6月予定 最終契約締結
- ▼2025年3月予定 事業承継

■東証プライム市場上場基準に適合

当社は東証プライム市場上場維持基準のうち、株式の1日平均売買代金0.2億円以上の基準のみ未達であり、経過措置を適用してプライム市場を選択しておりましたが、2022年12月31日時点において、プライム市場の上場維持基準のすべての項目で基準に適合しました。

今後も安定的に上場維持基準に適合していけるよう、引き続き企業価値の向上と併せて株式出来高の増加に努めてまいります。

カーボンニュートラル都市ガスの導入

埼玉事業所および滋賀事業所にカーボンニュートラル都市ガス（※）を導入しております。この都市ガス導入により、両事業所で使用する都市ガスは、**使用時に排出するCO₂が実質ゼロ**とみなされます。

また、この理念に賛同して埼玉事業所は印刷インキ業界では初となるカーボンニュートラルLNGバイヤーズアライアンスへの加盟をしました。

※天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、新興国等における環境保全プロジェクトにより創出されたCO₂クレジットで相殺すること（カーボン・オフセット）で、地球規模では、この天然ガスを使用してもCO₂が発生しないとみなされるLNGを活用した都市ガス

CO₂フリー電気の導入

当社で一番多く使われているエネルギーが電気です。高効率設備への更新や省エネ活動で抑制を図っているものの、事業活動を行う上でいまだ多くの電力を必要とします。

電気の使用に伴うCO₂排出量削減のため、2022年3月より再生可能エネルギー価値を持つCO₂フリー電気（※）を国内8拠点で導入をしており、**国内電気使用量の99.90%が実質的に再生可能エネルギー電気**を使用しております。

※再エネ指定の非化石証書を使用した実質的に再生可能エネルギー電気100%

※CO₂排出係数 0.000kg-CO₂/kWh（調整後排出係数）

今後も環境対応型製品の開発販売と併せ、製造過程等においてもカーボンニュートラル社会の実現、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

「多様な働き方改革実践企業」認定について

埼玉県「多様な働き方改革実践企業」において最高位「プラチナ」認定

埼玉県では、女性の力で埼玉県の経済を元気にする「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」が進められており、その一環として「多様な働き方改革実践企業認定制度」が実施されております。

当制度は、仕事と子育て等の両立を支援するため、短時間勤務やテレワーク制度など、多様な働き方を実践している企業等を埼玉県が認定するものです。

3つの認定区分、プラチナ、ゴールド、シルバーの3段階があり、当社は最高位「プラチナ」に認定されました。

認定期間：2023年2月1日 ～ 2028年1月31日（有効期間は5年間）

今後も多様な働き方を推進し、男女が共に生き生きと働き続けることができる職場環境づくりに、より一層取り組んでまいります。



コア技術への集中と社外パートナーとの連携強化により、ソリューションビジネスへ展開

第二期中計期間

(最終年：2025年3月期)

「With You toward 2024」

“収益力回復と質的成長への基盤整備”

環境・社会とお客様・自社のサステナビリティに向けた取り組み

本格的な世界進出と新領域開拓に向け、既存製品強化と次世代製品開発の基盤を整える

- ・ 非注力製品群の撤退・合理化施策の遂行
- ・ 「製品+サービス」組合せ価値提供モデルの構築
- ・ 環境対応製品（省エネ・バイオマス化等）の拡充
- ・ 国内・海外（地域別）事業戦略の再構築と実施
- ・ 社外パートナーとの共同研究開発加速
- ・ 人材育成・ダイバーシティ推進施策の遂行
- ・ 株主還元強化

定量目標

営業利益率 : 6.0%
ROE : 6.0%
配当性向 : 50%以上

第三期中計期間

(最終年：2028年3月期)

“課題解決型ビジネスモデルへの転換加速”
ソリューション創出による社会への共通価値提供

大きな環境変化を取り込み、UV技術を展開したEBインキを軟包装印刷へ広げる

- ・ 注力製品群へのリソース集中
- ・ 「製品+サービス」組合せ価値提供モデルの進化
- ・ EBインキによる軟包装印刷への進出
- ・ 環境・安全面でExcellentなUVインキの実用化
- ・ デジタルリテラシーの向上
- ・ 競争力と安全を兼備した次世代生産システムへの移行
- ・ 理念・方針のグループ内浸透と企業文化変革

第四期中計期間

(最終年：2031年3月期)

“社会への貢献の実感を伴った事業成長”
2030年ビジョンの実現とステークホルダー満足の上昇

UVインキの高安全性タイプへの完全移行と、軟包装印刷のEBインキ化への転換を進める

- ・ 軟包装EBインキ売上高：100億円超
- ・ 連結営業利益額：48億円超
- ・ 連結営業利益率：8%超

- ・ 製品ポートフォリオ改革の追求
- ・ DXを通じた企業変革
- ・ エンゲージメント向上による組織能力向上
- ・ 2050年カーボンニュートラルに向けた取り組み

定量目標

営業利益率 : 8.0%
ROE : 8.0%
配当性向 : 50%以上

成果

- 収益力改善、注力製品群と地域の明確化に向け、国内インキ事業における値上げ交渉、事業譲渡や撤退の決議、ベトナムとフィリピンにおけるUVインキのシェア増大に向けた活動を開始

課題

- 原材料の高騰、インフレによる消費減退等、急速な環境変化への対応が難航。価格改定の促進、生産や事業ポートフォリオの更なる最適化・高度化等、持続可能な経営の観点から施策を講じていく

第二期中計期間 (最終年：2025年3月期)

“収益力回復と質的成長への基盤整備”
環境・社会とお客様・自社のサステナビリティに向けた取り組み

本格的な世界進出と新領域開拓に向け、既存製品強化と次世代製品開発の基盤を整える

2022年3月期 実績

2023年3月期 実績

2025年3月期 中計

売上高	444億円	436億円	500億円
営業利益率	0.5%	1.0%	6.0%
ROE	5.8%	2.3%	6.0%
当期純利益	26億円	11億円	30億円

- “コア技術への集中と社外パートナーとの連携強化で課題解決型ビジネスへ展開”に向けた新経営体制
- 経営環境の変化に迅速かつ的確に対応し、持続的成長につなげるため、取締役会のスリム化を実施

社内取締役（5名 → 3名）



高見沢 昭裕

代表取締役社長



中間 和彦

常務取締役



関根 秀明

常務取締役

社外取締役（6名 → 4名）



大高 健司

- 株式会社ホンダカーズ愛知 元 社長
- 株式会社ホンダコンサルティング
元 エグゼクティブコンサルタント



野口 郷司

- 株式会社アプラスフィナンシャル
元 CEO代表取締役社長執行役員



英 公一

- EY 新日本有限責任監査法人
元 理事長



木村 英明

- 四谷東法律事務所 弁護士
- 中央大学大学院 法務研究科（法科大学院）
客員教授

（2023年6月23日開催予定の第81回定時株主総会において上記各取締役候補者が選任された場合）



高見沢 昭裕

- 入社以来、長年にわたり海外業務に携わり、杭華油墨化学有限公司（現 杭華油墨股份有限公司）総経理を務め、強いリーダーシップを発揮し、最適な業務執行体制の構築に取り組み、迅速な意思決定による機動的な経営を推進し、競争力強化に尽力しました。現在は、インキ事業部門を統括する取締役として、当社の事業変革について積極的に意見・提言等を行い、事業変革の加速と経営の更なる高度化を強力に押し進め、当社の企業価値向上に貢献しております。
- 指名委員会において、当社が定める取締役に求める資質要件を満たしており、長期ビジョン及び中期経営計画の達成を目指して業務執行の陣頭指揮を執っていく役割を果たすことができると判断されたことを踏まえ、取締役候補者といたしました。なお、同氏が取締役に選任された場合、代表取締役社長に選定するとともに、報酬委員会の委員に選定する予定です。

「EBインキ」は、EB（Electron Beam = 電子線）の照射により瞬間硬化するインキで、次の特徴があります

- ・溶剤／光開始剤不使用のため、低臭かつ安全性が高い印刷物が得られる
- ・溶剤不使用！作業環境の改善が図れ、揮発による大気汚染の心配がない
- ・印刷物としてのCO₂排出量が減少できる

→つまり、従来の溶剤インキに比べて、環境・安全面で優位性があり、食品包装・日用品包装用途等の軟包装印刷に適しています。

従来の「溶剤インキ」から無溶剤の「瞬間硬化インキ」への転換を実現し社会課題を解決！

世界の印刷インキの用途別需要予測において、パッケージ印刷用途は将来にわたり成長が見込まれています。大きな市場規模を持つ軟包装分野の主流である溶剤インキは、世界的に環境・安全面で改善の余地を残しているといえますが、EBインキは、その特徴から従来の溶剤インキの課題解決に適しており、当社にとって成長に向けた新領域となると考えております。

「溶剤インキ」から「EBインキ」への転換を実現することで、社会課題の解決と当社の事業成長の両立を図り、2031年3月期に軟包装EBインキ売上高100億円超を目指します。

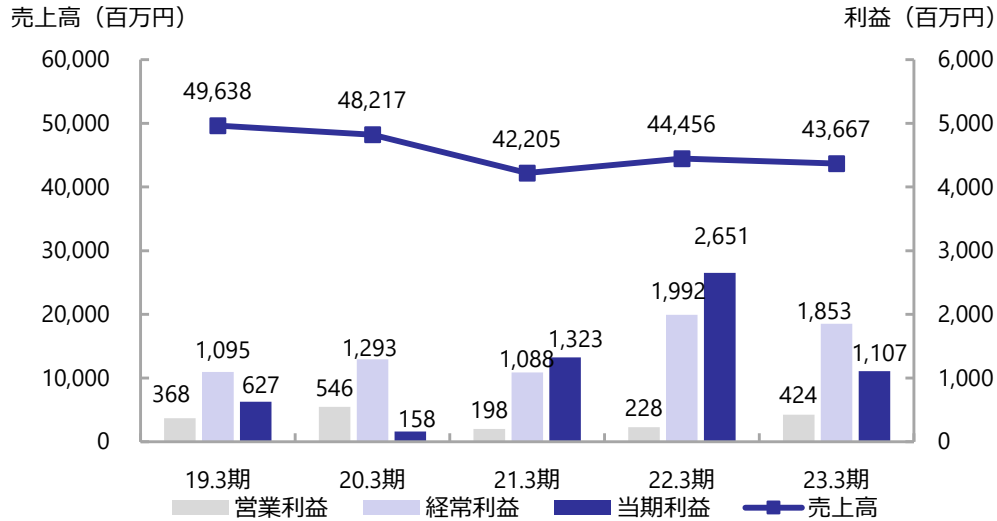
 **IGAS2022**
INTERNATIONAL GRAPHIC ARTS SHOW



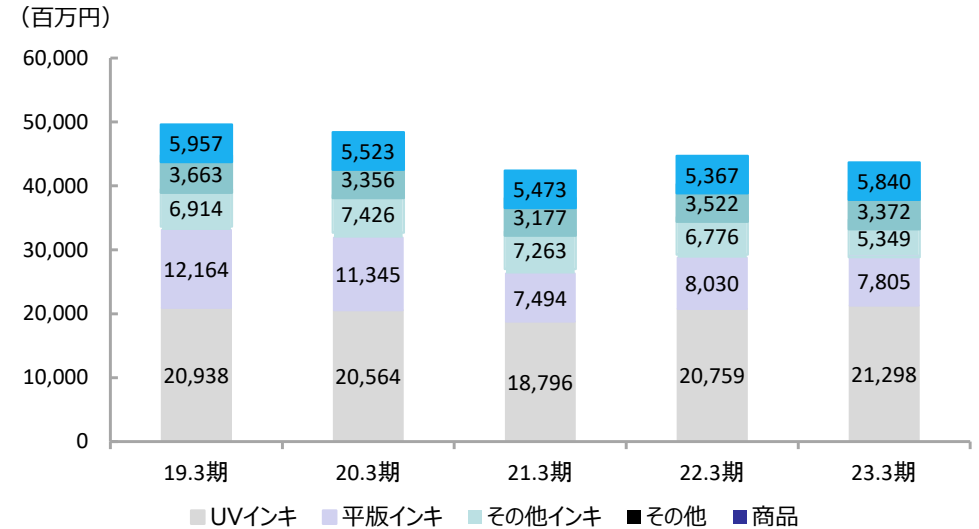
2022年11月24日～28日に開催された「IGAS2022」へ出展しました。EBインキをはじめ、ローマイグレーション、特練ビジネスなどを展示し、ブースへ来場された方々からの問い合わせが来ております。

EBインキへの反響も大きく、目標として掲げていた一緒に作り上げていく社外パートナーとなり得る先も出てきており、アプローチを進めております。

連結業績の推移



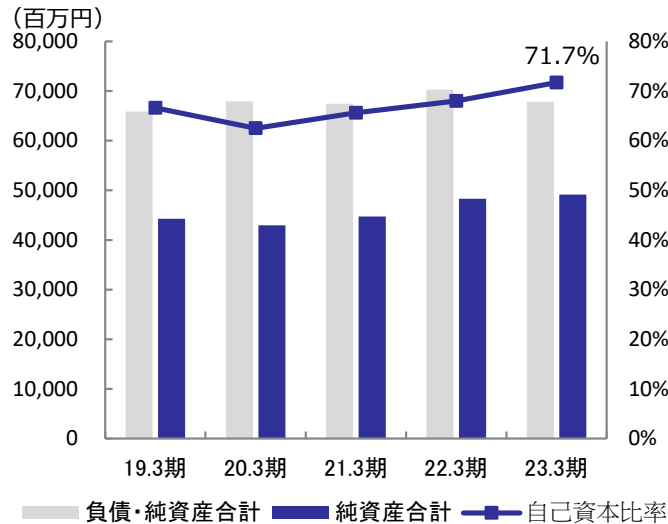
製品ごとの連結売上高の推移



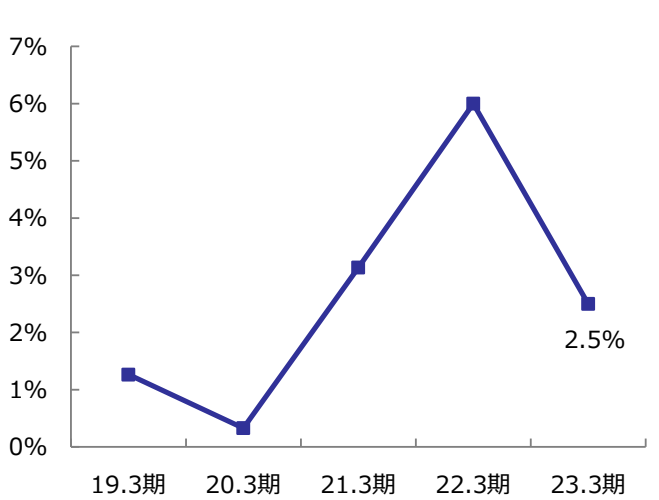
地域ごとの連結売上高の推移 相殺消去後 (百万円)

	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期
日本	34,419	32,885	28,160	28,825	27,161
アジア	10,900	10,570	9,677	10,547	11,211
その他地域	4,318	4,761	4,367	5,082	5,294
北米	2,626	2,968	2,701	3,068	3,512
欧州	897	1,137	983	1,159	935
その他	792	654	682	854	846

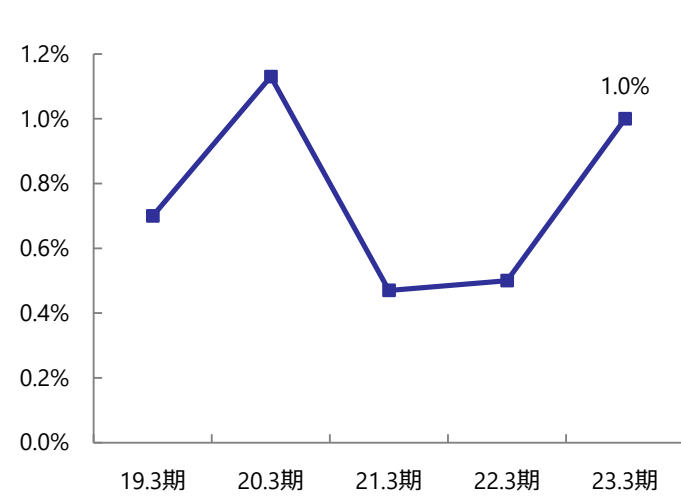
総資産、純資産、自己資本比率の推移 (連結)



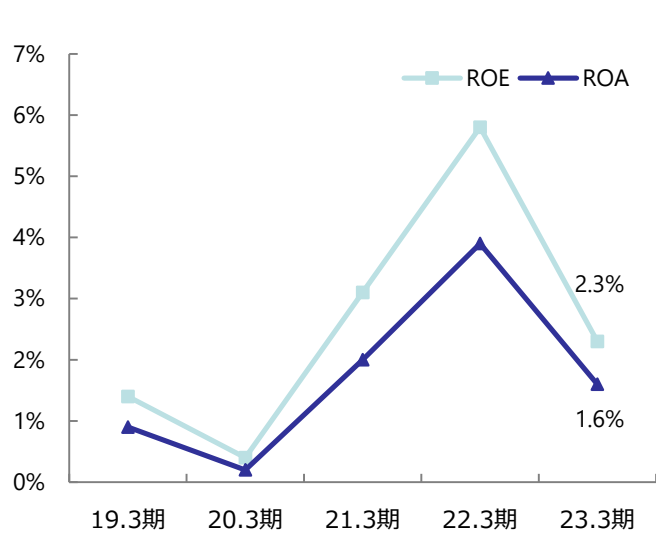
売上高当期純利益率 (連結)



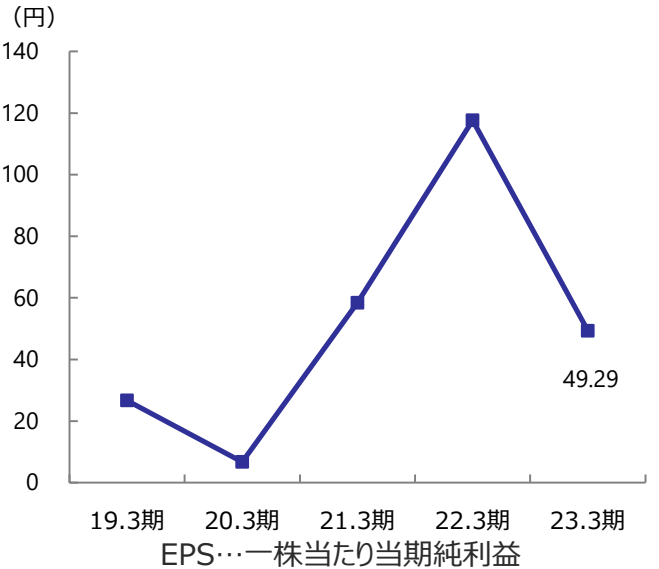
売上高営業利益率 (連結)



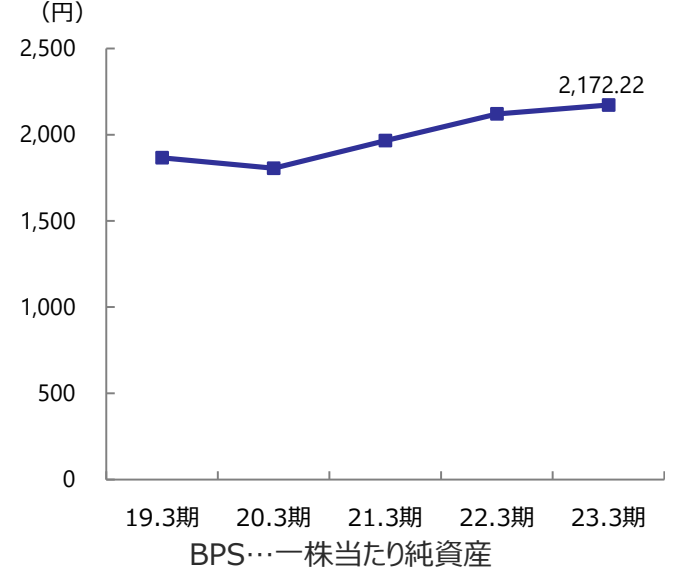
ROE、ROAの推移 (連結)



EPS (連結) の推移



BPS (連結) の推移



Corporate Slogan

Technology and Kindness

経営理念

「独自のテクノロジー」で
「お客様にとって真によいもの」を提供し、社会に貢献する

2030年ビジョン

個人と組織が共に成長し
社会から信頼される
グローバル企業となる

経営の基本方針

お客様起点で考え行動し、
価値を創造する

自ら成長に努力する社員を
支援し、成果を公正に評価
する

事業活動を通じて社会課題
を解決する

T&K TOKA は、1947年に印刷インキメーカーとして創業し、製品群を印刷インキから精密分散品や機能性樹脂に展開してきました。「Technology & Kindness」の言葉に表されるように、創業から大切にしてきた、「使いやすくいいものを提供していこう」という「まごころ」は75年経った今も、当社のDNAとして息づいています。

これは、100年後も変わらないし、変えてはいけないと強く思っています。

一方で「テクノロジー」。現在も高い評価をいただいておりますが、次々と変わりゆく時代に対応するためには、より一層の変化が必要だと考えています。

チャレンジングな姿勢を忘れず、より付加価値の高い製品をご提案していきたいと考えています。

このプレゼンテーションには、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおります。かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績はこのプレゼンテーションに記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、このプレゼンテーション後において、かかる将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

IRの問合せ先

株式会社 T & K TOKA 財務部

Tel 03-3963-0511

Mail ir.tk@toka-global.com

